



「特別展」

阪神間 モダンライフ

PANSHINKAN MODERN LIFE

2021.2.26^金～4.28^水

※HPで新型コロナウイルス感染症対策および最新情報を必ずご確認の上ご来館ください
<http://www.mukogawa-u.ac.jp/~museum/>

〔閉館日〕土曜、日曜、祝日、3月31日(水)

〔開館時間〕10:00～16:30 〔入館料〕無料 ●全点写真撮影OK

〔場所〕武庫川女子大学 学術研究交流館5階ギャラリー

武庫川女子大学附属総合ミュージアム

Mukogawa Women's University Museum

〒663-8184 兵庫県西宮市鳴尾町1-10-21 アクセス=阪神電車「鳴尾・武庫川女子大前」から徒歩5分

阪神間

モダンライフ

武庫川女子大学附属総合ミュージアムは、近現代の着物や生活用品約3万6千件を所蔵しています。当館が位置する阪神間の暮らしが織り込まれたものです。2019年に寄贈されたS家コレクションも、そうした阪神間の暮らしを反映した資料群であり、暮らしの中で蓄積された衣類や生活用品で構成されています。

S家は、大阪船場の道修町の薬種問屋を出自とし、創立200年を超える企業の創業者の家系です。大阪の事業家が、家族の居宅や別荘を構えたことによって、阪神間に独自の生活文化圏を形成したことが知られていますが、当家は、そうした流れに先鞭をつけた船場商家の一つです。

従来、阪神間モダンイズムとしてクローズアップされてきた対象は、近代になって阪神間地域を彩ることになった私鉄交通機関の敷設やそれにとまなう宅地開発や遊園地・動物園などの施設、モダンな建築物や住居など、郊外住宅地の形成に関するものでした。また阪神間に住んだ谷崎潤一郎・小出楢重や「西畑文化村」に住んだ佐藤紅緑などの作家や芸術家に関する事績が取り上げられてきました。この点は、阪神間に住んだ作家がとらえた、阪神間の「モダンライフ」として、本展でも触れています。

本展示では、船場商家の家族生活の中で使われ、その暮らしを支えたモノや人々の行動に注目します。暮らしに踏み込んだ、新たな試みとして、阪神間の「モダンライフ」を提案します。



1



2



3



5



6



4



7



8



表面：木曜クラブ集合写真（於：甲子園ホテル）／昭和12年
 1：香水瓶／昭和15年以降～平成 2：打掛／大正9年 3：櫛入れ袋物
 4：携帯用ソーイングセット／昭和戦後期 5：広報誌「みつこし」5／昭和16年5月
 6：広報誌「みつこし」4表紙／昭和16年4月 7：帝国義勇艦隊 記念／明治38年
 8：ブラウス（八掛から更生）／昭和23～25年頃

武庫川女子大学附属総合ミュージアム Mukogawa Women's University Museum



アクセス＝阪神電車「鳴尾・武庫川女子大前」から徒歩5分
 電話＝(0798) 45-3509
 HP＝<http://www.mukogawa-u.ac.jp/~museum/>

HPで新型コロナウイルス感染症対策および最新情報を必ずご確認ください